

天保く嘉永期長州藩「他国修業」生の動向をめぐって

小川 亜 弥 子

(二〇〇三年九月十日受理)

はじめに

幕末期長州藩の他国修業生の派遣については、既に先学によって研究が行われ、文教政策の一環として、その重要性が指摘されている^①。筆者も、これまで、長崎オランダ直伝習生の派遣を文教政策及び軍制改革との関連から究明し、諸研究の成果を再検討した^②。しかし、ここで、次の点を確認する必要がある。 (筆者も含めた) 従来の研究は、安政期の他国修業生の派遣をもって幕末期の総体と見なし、その有用性を強調してきた、という点である。即ち、他国修業生の動向については、一側面のみ光を当てて論じたに過ぎなかったのである。

この点を克服するため、本稿では、文教政策の中で、他国修業という修業形態がどのように模索され、定着の過程を辿るのかを検討してみたい。従って、本稿で対象とする時期は、嘉永六年までとなる。具体的な作業としては、当該期に発給された他国修業に関する書付に当たるとともに、膨大な文書群の中から、他国修業者を一人一人抽出することを試みた。後者については、更に、その一人一人について、「分限帳」で丹念に追い、階級・石高を確認した。

長州藩主毛利敬親は、天保九年(一八三八)八月五日に、村田清風と香川作兵衛を地江戸仕組掛に登用し、藩政改革に着手した。しかし、この改革は、清風に強い権限を与えていなかったこともあり、十分な効果を上げることができなかった。そのため、藩主敬親は、天保十一年五月二十七日、清風を表番頭格に昇格させ、江戸当役用談役・当役手元役に任じ、改革の徹底化を目指した。

村田清風にとって、文教政策は、幕藩領主的支配体制の全面的再建を根底から支える一つの重要な側面であった。同時に、この時期の文教政策は、列強の外圧に対処するため、人材養成という緊急課題に取り組む必要があった^③。清風は、藩政改革の基本方針の一つとして、天保九年の改革案では、「士ハ文武の教を以、清廉剛毅^④」であることを掲げ、天保十一年七月七日の「流弊改正意見^⑤」でも、文武の奨励と人材の登用を強調した。

天保十二年四月六日、藩主敬親は、江戸参勤として桜田邸に到着した。これに伴い、村田清風等は、江戸で改革を推進することとなった。同天保十二年五月(日不詳)、当役益田刑部(元宣)を中心とする江戸

の藩政府は、江戸在邸諸士の文武奨励のため、桜田邸に「文武之稽古場御造立」を決定した。この稽古場は、同年十二月十一日に「講堂御稽古開キ」が行われ、有備館と命名された。安永七年（一七七八）以来、江戸での文武修業は、「諸稽古トして、御門外罷出候而ハ、他所人付合等二造佐入」となるため、「業家の者ハ格別、其外ハ、稽古之外出被差留、心懸之面々ハ、御屋敷内ニ而修練」するよう命じられていたのである⁽⁹⁾。以後、有備館は、江戸での藩士教育に重要な役割を果たすこととなった⁽¹⁰⁾。

藩士の文武諸稽古を担当する家業人の力量は、文武奨励に当たり、必要不可欠の条件であった。同天保十二年六月二日、江戸の藩政府は、家業人の質的向上をはかるため、次のような方策を打ち出した。

今度御詮議之趣有之、文学、弓、劍、槍之師家ニ限り、自力を以、他所稽古被差免候者、夜白志を勵し、專一ニ令修行候段、相聞候ハ、至其節稽古料可被立下候、尤不絶聞繕被仰付候事ニ付、若不精懈之趣相聞候ハ、稽古料可被召候、依之内意被仰付候⁽¹¹⁾

これは、文学・弓術・馬術・劍術・槍術の師家が私費で他国修行を行う際には、日夜精勵者に限り、藩費で稽古料を支給すること、但し、少しでも懈怠の様子を確認した場合には稽古料を没収することという内容であった。翌六月三日には、稽古料の具体的支給額が次のように提示された。

- 一 御扶持方卷人分、無歩引
- 一 雑用銀月別拾七匁充、無歩引
- 一 稽古料銀式百目、無歩引
- 外二 金式兩 無歩引⁽¹²⁾

六月同日、当役益田刑部（元宣）は、これらの内容を江戸在邸の文学・

弓術・馬術・劍術・槍術の各師家に通達するとともに、十一日には、国元の当職毛利蔵主（房謙）に宛てて書を送り、「右様被成御承知、加判衆江も被仰知、於其元も儒者、弓、馬、劍、槍之師家中江、内意御沙汰候様ニと存候⁽¹³⁾」と伝えた。国元の藩政府は、協議の結果、前掲史料傍線部の文言を「差除⁽¹⁴⁾」くことを決定した。その理由については、江戸の藩政府に宛てた七月十八日付の返書に、「於爰元ハ、右之文言有之候而ハ、差聞之趣も有之様相見候⁽¹⁵⁾」とあるのみで、詳しく知ることはできない。おそらく、一端支給した稽古料を再没収することは、文学・四術の家業人のプライド傷つけ、反発を呼ぶものと判断したためであろう。いづれにしても、国元においては、彼等を刺激しないよう細心の注意を払っていたことがわかる。

そもそも、藩政府にとって、家業人への他国修業稽古料の支給については、その是非をめぐり、藩財政との関連から絶えず議論すべき問題であった。六月十一日付の当役益田刑部（元宣）から当職毛利蔵主（房謙）に宛てた先の書には、この時期の藩政府の見解が端的に述べられている。次に示しておこう。

（上略）文学、弓、馬、劍、槍之儀ハ、別而治乱之要用ニ候得ハ、古来より無間断御引立被仰付儀ニ候得共、兎角人氣相向ひ兼候処、昨年（天保十一年―筆者註）以来、日を追而盛ニ相競ひ付而ハ、師家中、益志を勵し令修行候処、小身難渋者多、自力を以、他所稽古致兼候者も有之候、前々より諸芸師江ハ、他所稽古料被立下候御仕法有之候処、多ハ医師、絵師、役者等相願被立下候得共、修行之驗無之者も有之、御所帯御差詰旁を以、一統稽古料被成御引候、然処当節之時勢ニ而ハ、御仕組中ながら、文学、弓、馬、駿、槍之師家ハ、格別稽古料被立下度筋ニ候へ共、下より相願被立下候而ハ、一

統江響候事二付、左様も難被仰付、乍尔文学四術之儀ハ、別而等閑
 二難被差置事二付、右師家二限り、先自力を以、致他所稽古、夜白
 志を勵し令修行候者江ハ、至其節、上より稽古料可被立下との御事
 二付、詮議申付、爰元居合之師家江ハ、別紙之通、内意之令沙汰候
 (下略)¹⁷⁾

即ち、同書によると、従来、家業人が「他所稽古」を願ひ出た場合には、基本的には稽古料を支給していたこと、しかし、その希望者の多くは、医師・絵師・役者等であり、必ずしも「他所稽古」の有用性を認めることができなかつたこと、そのため、以後は、藩財政節約の一環として、家業人への他所修業稽古料の支給を取り止めていたことなどを知ることが出来る。更に、此度の改革においては、財政逼迫の折柄ではあるものの、文武奨励を推進するため、文学・弓術・馬術・剣術・槍術の師家に限り、他所修業稽古料の支給を開始したいとする藩政府の意向が明確に示されている。但し、藩政府は、その他の師家への影響を鑑みて、まずは、私費での「他所稽古」を命じ、出精者に関してのみ、特別に藩費を投じて稽古料を支給することとした。【表1-1】を参照された。これは、天保十年から同十二年五月の間に、他国修業を許可された者を一人一人確認し、列記したものである。確認できた一八人を修業先と修業内容別に整理すると【表1-2】の結果となる。文学修業の二人は、家業人でないため除くとしよう。一六人の家業人のうち、文学・弓術・馬術・剣術・槍術以外の師家は、一四人に及んでいた。【表1-3】【表1-4】は、一八人を階級別・石高別に集計したものである。【表1-3】によると、藩政の中枢に参画できる大組の士は、全体の約二八%を占めるに過ぎない。【表1-4】については、長州藩は大藩であるため、一〇〇石以上五〇〇石未満の士を中級家臣団として、以下、

五〇石以上一〇〇石未満を中の下、五〇石未満を下と見ると、石高が判明した一二人のうち九人、即ち七五%が中の下以下の階層であったことがわかる。これは、前掲史料に見られる藩政府の現状認識を裏付けたものといえよう。

一方、江戸在邸諸士への文武の奨励については、同天保十二年五月九日、「他所入門之儀、相願候ハ、可被差免」ことへと進展した。江戸の藩政府は、「平士文武稽古之儀ハ、御奉公之基本業」であるとの基本理念を再確認した上で、その対象については、「御番手之面々并、見習之嫡子、二、三男ニ至迄」とし、更には、「足輕以下、又家来之儀も右二準」ずることとした。「他所入門」とは、江戸番手中の諸士が幕府、旗本及び在府の他藩士に就いて稽古を行うことである。村田清風は、五九歳の齡を押して、福岡藩士幾岡平太郎の下での剣術修業に、逸早く名乗りを上げている。清風の文武奨励への意気込みをうかがうことができよう。

これ以後、嘉永三年(一八五〇)までの約一〇年間に、藩の許可を受けて他国修業を行った者は、【表2-1】に示すように、延べ二三四人に及ぶ。「私費」修業者の大半は、確かに、家業人であった。その一方で、剣術・槍術・蘭学を修めるため、二二人の諸士が私費での他国修業を許可されていた。後述するように、このことは看過できない事実である。【表2-2】は、他国修業の形態を「私費」「江戸番手中(江戸在邸中)」「公務」の三つに分け、更に、それぞれに関して修業先と修業内容別に整理し、各年毎にまとめたものである。他国修業者のうち、私費による者は延べ九八人であり、江戸番手中(公務を含む)の諸士は延べ一三六人を数える。前者は、天保十三、弘化元年をピークに減少し、後者もまた、天保十二、十四年をピークに、その後、減少傾向を示して

いる。修業内容を見てみよう。藩政府が文武の基本として重視した文学・弓術・馬術・剣術・槍術の修業者は、二三四人のうち一七〇人であり、全体の約七三%を占めている。特に、剣術修業者は一一一人と圧倒的に多い。この時期の他国修業の中心分野は剣術であったことがわかる。一方、この間、蘭方医学及び蘭学修業者は、延べ二一人を数える。彼等こそが、村田清風の洋学振興策を支え、その後、発展的に継承していく存在であった。これについては、既に別稿で明らかにした通りである。^②【表2-3】と【2-4】は、二三四人を階級別・石高別に集計したものである。これによると、階級別では、階級が判明した二二〇人のうち、藩政の中枢に参画できる大組の士は一七六人であり、全体の約七七%に及んでいる。石高別では、石高が判明した一四三人のうち、中以下下の階層は合計九七人となり、全体の約六八%に達する。中級層は全体の三一%である。これは、この時期、中下層の諸士が他国修業者の主力となっていたことを示している。彼等は、まさに、村田清風が天保改革で期待した階層であった。更に、こうした他国修業の風潮が確実に中級家臣団にも波及していたこともわかる。この事実は注目に値しよう。なお、他国修業者の年齢については、【表2-5】の結果を得た。年齢が判明した一一一人のうち、二〇〜二四歳が二七人、二五〜二九歳が二〇人、三〇〜三四歳が三一人となっており、全体の約七〇%が比較的若手で占められていたことがわかる。

表1-1 天保10年(1839)1月～天保12年(1841)4月の長州藩他国修業生

氏名	年齢	階級	石高	理	役	許可年月日	期間(a)	期間(b)	修業先	修業先	修業内容	手廻組
1 瀧真之允	不詳	大組	不詳	甲倫館諸生(給付生)		天保10.06.01	私費		江戸	安積祐助(良斎)	文学	
2 内藤駒之允*	不詳	大組	47,500	劍術者(新陰柳生家当流)		天保10.09.21	私費(13ヶ月)		江戸	天石進	劍術	
3 横地長左衛門	不詳	大組	不詳	隠健者(郷組流)		天保10.09.21	私費(13ヶ月)		柳川藩	加藤千左衛門	横術	
4 山本衷馬*	12	寺社組	121,500	醫師(備安流)		天保10.11.23	私費(36ヶ月)		江戸		能楽	
5 世良宗祖	25	寺社組	52,892	酒膳天(四茶流)		天保11.03.10	私費(延長)		江戸		能楽	
6 狩野九拾郎*	不詳	寺社組	不詳	絵師		天保11.03.10	私費(延長)		江戸	狩野善山院	絵画	
7 久衣玄機*	21	寺社組	25,000	本道医(道三流)		天保11.05.14	私費(36ヶ月)		京都		医学	
8 水田良慶	23	寺社組	41,000	外療医(南春流)		天保11.05.25	私費(57年延長)	江戸番手	江戸	栗作玩甫(天文方華書和解御用局)	医学	○
9 小田良平	62	士層	不詳	御蔵絵師		天保11.11.15			京都		絵画	
10 佐々木省庵	29	寺社組	51,300	外療医(阿蘭陀流)		天保12.01.27	私費(36ヶ月)		江戸	竹内玄同(丸岡藩医)	医学	○
11 西村東庵*	不詳	寺社組	25,000	針治 外療		天保12.02.09	私費(36ヶ月)		江戸	多紀養真院(幕医)	医学	
12 福原玄真*	26	大組	17,000	本道医(吉田流)	針医(長井福泉伝)	天保12.02.09	私費(36ヶ月)		江戸	栗作玩甫(天文方華書和解御用局)	医学	○
13 田原玄周	27	寺社組	30,000	本道医(道三流)		天保12.02.09	私費(36ヶ月)		江戸	安積祐助(良斎)	医学	○
14 天野謙吉*	26	大組	100,000			天保12.02.09		心添見習	江戸		文学(儒学)	
15 竹本豊之進	28	寺社組	131,500	能太夫(喜多流)		天保12.02.09	私費(36ヶ月)		江戸		能楽	
16 春日九郎八*	19	寺社組	39,425	狂言師(備流)		天保12.02.09	私費(36ヶ月)		江戸		狂言	
17 雲谷等備	不詳	寺社組	不詳	絵師		天保12.02.14	私費(80日)		京都		絵画	
18 小野篤次郎	不詳	寺社組	不詳	醫師(備安流)		天保12.02.18	私費(36ヶ月)		江戸		能楽	

・ 1人扶持=4.5石及び、銀10匁=1石で高直し済み。
 ・ 石高、階級は、主に安政2年の「分限帳」より記載。
 ・ 年齢は、安政2年の「分限帳」より逆算して算出。
 ・ *印=子弟。
 ・ 手廻組の欄の○印=安政2年～5年に編入が確認された者。
 注：表3-1に同じ。

表1-2 形態別・内容別・修業先別／長州藩他国修業生(天保10年1月～天保12年4月)

形 態	内 容 修業先	文学	剣術	槍術	馬術	砲術	兵学	医学	医学	蘭学	天文学	国学	書道	能楽	絵画	小計	合計
					弓術			(漢)	(蘭)					音楽			
私 費	他 藩		1	1												2	16
	京 都							1							2	3	
	江 戸	1						3	1					4	2	11	
江戸番手	江 戸	1							1							2	2
合 計		2	1	1				4	2					4	4		18

表1-3 階級別／長州藩他国修業生
(天保10年1月～天保12年4月)

階 級	人 数
大 組	5
寺 社 組	11
膳 夫	1
士 雇	1
合 計	18

表1-4 石高別／長州藩他国修業生
(天保10年1月～天保12年4月)

石 高	人 数
500 以上 ～ 未満	3
100 ～ 500	
50 ～ 100	2
～ 50	7
合 計	12
不 詳	6

天保～嘉永期長州藩「他国修業」生の動向をめぐって

氏名	年齢	階級	石高	現役	許可年月日	期間(②)	期間(⑤)	修業先	師事	修行内容	手廻組
19 村田四郎左衛門	59	大組	160,000		天保12.05.09		江戸番手	岡田平太郎(備前藩士)	密司馬(柳川藩士)	劍術	
20 河野寅之進	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.26		心添見習	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
21 内藤寅之助	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		心添見習	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
22 小沢七兵衛	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
23 中山重之助	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
24 小嶋左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
25 津田良左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
26 藤井平左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保12.05.29		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
27 松平平兵衛*	24	大組	79,078		天保12.06.02		長崎	長崎	密司馬(柳川藩士)	劍術	
28 佐藤彦左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保12.06.02		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
29 高杉小左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保12.06.02		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
30 藤井熊之允	不詳	(大組)	不詳		天保12.06.02		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
31 佐伯新八	不詳	(大組)	不詳	小姓役	天保12.06.08		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
32 山田又三	不詳	(大組)	不詳		天保12.06.10		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
33 村田九兵衛	31	大組	40,000		天保12.06.12		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
34 掛算治哉	不詳	(大組)	不詳		天保12.06.16		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
35 高木敏哉	不詳	降臣	不詳		天保12.06.17		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
36 戸倉久馬	不詳	降臣	不詳		天保12.06.17		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
37 平岡七郎治*	不詳	降臣	57,200		天保12.06.17		随員	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
38 佐藤雄雄*	不詳	大組	不詳		天保12.07.03	私費(13ヶ月)	随員	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
39 国司治人	27	大組	360,000		天保12.07.06	私費(13ヶ月)	江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
40 堀式又助*	不詳	(大組)	不詳		天保12.08.17	私費(13ヶ月)	江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
41 三浦城祐	不詳	大組	148,774		天保12.08.17	私費(13ヶ月)		柳川藩	加藤善右衛門	槍術	
42 栗島光次郎*	不詳	大組	59,800		天保12.08.17	私費(13ヶ月)		柳川藩	加藤善右衛門	槍術	
43 郡司勝之允	49	遠近付	66,000		天保12.08			柳川藩	大石進	劍術	
44 栗屋登助	35	大組	202,931		天保12.08			柳川藩	大石進	劍術	
45 井上守四郎	35	大組	202,336	長崎開役	天保12.08		公務	長崎	高島秋帆	砲術(高島流)	
46 井上守四郎	不詳	(大組)	不詳		天保12.09.16		公務	長崎	高島秋帆	砲術(高島流)	
47 井上守四郎	24	大組	79,078		天保12.10.10		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
48 高州弥三	不詳	(大組)	223,000		天保12.10.10		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
49 山名茂十郎	34	大組	50,900		天保12.10.10		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
50 山名茂十郎	33	大組	451,000		天保12.10.22		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
51 天道浪衛	43	大組	451,000		天保12.10.22		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
52 天道浪衛	43	大組	451,000		天保12.10.22		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
53 小方寛吉	不詳	(大組)	不詳		天保12.11.17		心添見習	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
54 中村玄信*	不詳	降臣	50,000		天保12.12.17	私費(36ヶ月)		京都	幾野平太郎(備前藩士)	劍術	
55 中村玄信*	不詳	降臣	不詳		天保12	私費		京都	幾野平太郎(備前藩士)	劍術	
56 中村伊助	59	大組	41,500	侍職(一代限り)	天保12	私費		江戸	林道(萩藩侍医)	医学(蘭方)	○
57 石村権三郎	不詳	(大組)	不詳		天保13.01.16		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
58 石道人郎	不詳	(大組)	不詳		天保13.01.26		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
59 玉井長慶	不詳	(大組)	不詳		天保13.01.26		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
60 山本長三郎	不詳	(大組)	不詳		天保13.02.27	私費(13ヶ月)		柳川藩	大石進	劍術	
61 小嶋宗祐	23	大組	130,000		天保13.02.27	私費(36ヶ月)		柳川藩	大石進	劍術	
62 福原玄真*	27	大組	17,000		天保13.03.07		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
63 井上七郎次	28	大組	164,311		天保13.03.27		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	○
64 内藤小次郎	不詳	(大組)	不詳		天保13.04.13		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
65 内藤小次郎	不詳	(大組)	不詳		天保13.04.13		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	
66 内藤精兵衛	41	大組	141,000		天保13.04.13		江戸番手	江戸	密司馬(柳川藩士)	劍術	

67	塚九郎右衛門	36	大組	330,000		天保13.04.17	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
68	山田熊之允	不詳	大組	不詳		天保13.04.18	心添見習	江戶	深井幸蔵(柳川藩士)	劍術	
69	柿並市太	28	大組	42,500		天保13.05.01	江戸番手	江戶	磯岡平太郎(福岡藩士)	医学	○
70	竹田祐伯	33	大組	50,000		天保13.05.09	江戸番手	江戶	空閑司馬(柳川藩士)	劍術	
71	藤助太郎*	不詳	大組	47,286	本道医(明朝金翁道士伝)	天保13.05.09	江戸番手	江戶	空閑司馬(柳川藩士)	劍術	
72	桂治人	不詳	大組	600,000		天保13.05.09	江戸番手	江戶	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術	
73	大和又四郎*	不詳	大組	138,000		天保13.05.09	江戸番手	江戶	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術	
74	栗屋新三郎	不詳	大組	不詳		天保13.05.09	江戸番手	江戶	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術	
75	中島雅助*	不詳	大組	103,973		天保13.05.09	江戸番手	江戶	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術	
76	平阿七郎信*	不詳	大組	57,200	劍術者(新陰柳生家当流)	天保13.08.21	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
77	左藤豊雄*	不詳	大組	不詳		天保13.09.05	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
78	黒沢新作	不詳	大組	不詳		天保13.09.15	柳川藩	柳川藩	柳川藩	劍術	
79	伊木秋之進	不詳	大組	不詳		天保13.09.15	柳川藩	柳川藩	柳川藩	劍術	
80	通藤又藤*	26	大組	102,500		天保13.09.15	柳川藩	柳川藩	柳川藩	劍術	
81	中谷猪之助	33	大組	183,500		天保13.09.15	柳川藩	柳川藩	柳川藩	劍術	○
82	黒助太郎*	不詳	大組	47,286		天保13.09.15	柳川藩	柳川藩	柳川藩	劍術	
83	采島光次郎*	不詳	大組	59,800		天保13.09.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
84	小幡与藤*	不詳	大組	40,000	格術者(十文字者宝蔵院流)	天保13.10.21	柳川藩	空閑權平	柳川藩	格術	
85	相式又助*	不詳	大組	不詳		天保13.10.22	柳川藩	加藤善右衛門	柳川藩	格術	
86	三浦城祐	不詳	大組	148,774		天保13.11.19	京都	久松豊蔵(柳川藩士)	柳川藩	格術	
87	羽根宗四郎	不詳	大組	不詳	絵師	天保14.06.06	江戸番手	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	絵画	
88	野村作兵衛	24	大組	251,517		天保14.06.07	江戸番手	江戶	陣井信道(教羅守医)	医学(儒方)	
89	松原玄甫	不詳	大組	不詳	益田刑部(菅組/永代家老)の家臣	天保14.06.07	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
90	山黒俊蔵*	不詳	大組	147,500	儒者	天保14.06.07	心添見習	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
91	繁沢光太郎	23	大組	140,000	儒者	天保14.06.07	心添見習	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
92	甲府伊助	61	大組	41,500	侍儒(一代限り)	天保14.06.10	江戸番手	江戶	阿田八之助(林錦の塾頭)	文学(儒学)	○
93	柿並半兵衛*	26	大組	79,078		天保14.06.10	江戸番手	江戶	阿田八之助(林錦の塾頭)	文学(儒学)	○
94	高杉小左衛門	不詳	大組	不詳		天保14.06.10	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
95	佐藤彦左衛門	不詳	大組	不詳		天保14.06.10	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
96	長井与左衛門	不詳	大組	不詳		天保14.06.10	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
97	藤井飛之允	不詳	大組	不詳		天保14.06.10	江戸番手	江戶	安積祐助(良斎)	文学(儒学)	
98	上山正左衛門*	24	大組	162,931		天保14.06.10	江戸番手	江戶	生方造酒	書道	
99	安戸吾兵衛	不詳	大組	不詳		天保14.06.10	江戸番手	江戶	生方造酒	書道	
100	竹田祐伯	34	大組	50,000	本道医(明朝金翁道士伝)	天保14.06.14	江戸番手	江戶	多紀榮眞院(雜医)	医学(儒学)	
101	氏家栄次郎*	不詳	大組	不詳		天保14.06.25	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	文学(儒学)	
102	安武善兵衛*	不詳	大組	41,447		天保14.06.25	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	文学(儒学)	
103	中谷猪之助	34	大組	183,500		天保14.09.15	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
104	進藤又藤*	27	大組	102,500		天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
105	伊不秋之進	不詳	大組	不詳		天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
106	黒沢新作	不詳	大組	不詳		天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
107	黒沢貞然	不詳	大組	不詳		天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
108	黒助太郎*	不詳	大組	47,286		天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
109	内藤作兵衛	29	大組	47,500	劍術者(新陰柳生家当流)	天保14.06.25	柳川藩	大石進	柳川藩	劍術	
110	山果次郎左衛門	31	大組	200,000		天保14.06.16	江戸番手	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術	
111	坪井竹魁*	16	大組	157,500		天保14.06.29	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術	
112	氏家与三左衛門	不詳	大組	不詳		天保14.06.29	江戸番手	江戶	村田大助(浜松藩士)	国学	
113	馬采目次郎	24	大組	不詳		天保14.07.02	江戸番手	江戶	村田大助(浜松藩士)	国学	
114	国司助次郎	24	大組	51,993		天保14.07.03	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術	
115	木原梅之進	17	大組	31,250		天保14.07.03	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術	
116	小堀吉太郎	不詳	大組	不詳		天保14.07.03	心添見習	江戶	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術	
117	国司助次郎	24	大組	51,993		天保14.07.03	心添見習	江戶	江崎市兵衛(柳川藩士)	格術	

118	大原権之進	17	遠近村◆	31,250		天保14.07.03	私費	心添見習	江戸	江戸橋市兵衛(柳川藩士)	儒術
119	小池吉太郎	不詳	(大組)	不詳		天保14.07.03	私費	心添見習	江戸	江戸橋市兵衛(柳川藩士)	儒術
120	中村伊助	61	(大組)	41,500	侍儒(一代限り)	天保14.07.03	私費(36ヶ月)	江戸番手	江戸	林鶴(大学頭)	文学(儒学)
121	圃田豊隆	31	大組	56,250	儒者	天保14.07.20	私費	江戸番手	江戸	古賀洞庵	文学(儒学)
122	大和伊藤	不詳	大組	645,000		天保14.07.21	私費	江戸番手	江戸	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術
123	道家勝二郎	不詳	大組	280,000		天保14.07.21	私費	心添見習	江戸	磯岡平太郎(福岡藩士)	文学
124	三浦与右衛門*	33	大組	300,000		天保14.07.27	私費	江戸番手	江戸	野田喜一(不詳)	文学
125	井上修三郎	不詳	(大組)	不詳		天保14.08.22	私費	心添見習	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	書道
126	空直松太	不詳	(大組)	不詳		天保14.08.06	私費	心添見習	江戸	生方造酒	書道
127	仁保玄珠	24	大組	23,600	本道医(道三流)	天保14.08.10	私費	江戸	阿部文政(不詳)	医学	
128	井上修三郎	不詳	(大組)	不詳		天保14.08.27	私費	心添見習	江戸	生方造酒	書道
129	杉屋左衛門	不詳	(大組)	不詳		天保14.09.03	私費	江戸番手	江戸	磯岡平太郎(福岡藩士)	劍術
130	田原玄周	29	寺社組	30,000	本道医(道三流)	天保14.09.23	私費	江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学(儒方)	
131	村田次郎三郎*	19	大組	40,000		天保14.11.11	私費	心添見習	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	劍術
132	采島光次郎*	不詳	大組	59,800		天保14.12.28	私費(80日)	柳川藩	大石進	大石進	劍術
133	河見敬哉	不詳	陪臣	不詳	吉敷毛利の家来医	天保14	私費	江戸番手	江戸	竹内玄回(丸岡藩医)	医学
134	河見敬哉	不詳	陪臣	46,000	吉敷毛利の家来医	天保14	私費	江戸番手	江戸	竹内玄回(丸岡藩医)	医学
135	仙波豊十郎*	不詳	遠近村	90,000	左田毛利の家来医	天保14	私費	江戸番手	江戸	村田康太郎(一番家馬師)	馬術
136	豊条英彦	24	陣屋	25,000	外療医(阿蘭陀流)	弘化01	私費	江戸番手	江戸	渡辺春灯(竹幕藩医)	医学(儒方)
137	西田以伯	28	寺社組	25,000	外療医(阿蘭陀流)	弘化01.01	私費(36ヶ月)	江戸番手	江戸	戸塚静庵(薩摩藩医)	医学(儒方)
138	佐々木省庵	32	寺社組	51,300	外療医(阿蘭陀流)	弘化01.02	私費(36ヶ月)	江戸番手	江戸	戸塚静庵(薩摩藩医)	医学(儒方)
139	馬采平庵*	20	大組	44,690	劍術者(新藤柳生家当流)	弘化01.02	私費(13ヶ月)	柳川藩	柳川藩	戸塚静庵(薩摩藩医)	劍術
140	北川万藤*	20	大組	48,294	居合立合劍術者(片山流)	弘化01.02	私費(13ヶ月)	柳川藩	柳川藩	戸塚静庵(薩摩藩医)	劍術
141	井上平三郎	20	大組	40,000	劍術者馬木の門弟	弘化01.02	私費(13ヶ月)	柳川藩	柳川藩	戸塚静庵(薩摩藩医)	劍術
142	山田隼之丸	不詳	(大組)	不詳	劍術者北川の門弟	弘化01.02	私費(13ヶ月)	柳川藩	柳川藩	戸塚静庵(薩摩藩医)	劍術
143	田原玄周	30	寺社組	30,000	本道医(道三流)	弘化01.03	私費(24ヶ月)	江戸番手	江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学(儒方)
144	田原玄周	30	寺社組	30,000	本道医(道三流)	弘化01.03	私費(24ヶ月)	江戸番手	江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学(儒方)
145	益田右近	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	大槻平次(徳島藩医)	文学
146	天野謙吉	29	大組	100,000		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	文学
147	有田十郎左衛門	不詳	(大組)	不詳	外療医(南蛮流)	弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	大槻平次(徳島藩医)	文学
148	中島自炊	24	大組	62,000	外療医(南蛮流)	弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	野田喜一(箱浦)(田辺藩)	文学
149	中島自炊	24	大組	62,000	外療医(南蛮流)	弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	野田喜一(箱浦)(田辺藩)	文学
150	島尾幸之丞	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	戸塚静庵(薩摩藩医)	儒術
151	渡多野秀次郎	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
152	兼重仁吉	22	大組	185,000		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
153	村屋謙吉	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
154	河内山百合庵	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
155	羽仁兼之允	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
156	福原内記	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
157	松野半蔵	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
158	松野半蔵	不詳	(大組)	不詳		弘化01.04	私費	江戸番手	江戸	久松豊蔵(柳川藩士)	儒術
159	坪井信友*	13	寺社組	25,000	本道医(西洋内科)(江戸詰)	弘化01.06	私費	江戸番手	江戸	平岡幾太郎(唐津藩馬師)	馬術
160	内藤作兵衛	30	大組	47,300	本道医(新藤柳生家当流)	弘化01.08	私費(30日)	柳川藩	柳川藩	平岡幾太郎(唐津藩馬師)	文学(儒学)
161	深澤多門*	不詳	大組	180,000	格別御小姓役	弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
162	相式松助	不詳	大組	不詳	劍術者内藤の門弟	弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
163	竹中久三兵衛*	不詳	大組	282,500	格別御小姓役	弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
164	平岡久三兵衛	52	大組	57,200	劍術者(新藤柳生家当流)	弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
165	兼常竹之道	不詳	(大組)	不詳		弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
166	栗屋新三郎	不詳	(大組)	不詳		弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
167	赤川千次郎	不詳	(大組)	不詳		弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術
168	河内山新蔵	不詳	(大組)	不詳		弘化01.10	私費	柳川藩	柳川藩	大石進	劍術

169	真茶英庵	25	陸臣	90,000	石田毛利の家来医	弘化202	私費			江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学
170	栗山玄厚	29	大組	178,000	本道医(北村安斎伝)	弘化202.05	私費(36ヶ月)			京都	山崎東洲(築真侍医)	医学
171	寶屋玄中	30	大組	147,500	本道医(道三流)	弘化202.春	私費(36ヶ月)			京都	吉益周助	医学
172	阿彌半庵*	19	大組	87,646	檢術者(十文字若宝藏院流)	弘化202.春	私費(13ヶ月)			会津藩	志賀小太郎	檢術
173	小幡与次郎*	不詳	大組	40,000	檢術者(十文字若宝藏院流)	弘化202.春	私費(13ヶ月)			会津藩	志賀小太郎	檢術
174	小幡与次郎*	18	大組	100,600	御医業(人見流)	弘化202.春	私費			江戸	村田熊太郎(橋家馬師)	馬術
175	本原良庵	不詳	(大組)	不詳		弘化202.春				江戸	村田熊太郎(橋家馬師)	馬術
176	中島勝太郎	不詳	(大組)	不詳		弘化202.03				江戸	岡平太郎(福国藩士)	馬術
177	浮村弥兵衛	38	無給通	4,300	在府中(給師)	弘化202.04	私費			江戸	佐吉内記	繪画
178	竹田久三郎	不詳	(大組)	不詳		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
179	高杉長四郎	不詳	(大組)	不詳		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
180	堀井集太	33	大組	62,000		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
181	三浦正太郎	不詳	(大組)	不詳		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
182	三戸小三郎	不詳	(大組)	不詳		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
183	小沢丑之助	不詳	(大組)	不詳		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
184	横見新三郎	19	大組	47,500		弘化202.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
185	飯田弥七郎*	19	船手組	393,268		弘化202.05	私費(180日)			大坂	本紋之助(大阪被控砲方)	砲術(天山流)
186	飯田正伯	21	船手組	50,000	本道医(道三流)	弘化202.05	私費(36ヶ月)			熊本藩	堀野宗春	医学
187	山藤金之輔	32	大組	300,000		弘化202.07				江戸	川崎魯助(魯齋)(沼田藩)	医学
188	山本長三郎	不詳	不詳	不詳		弘化202.08				江戸	大石連(柳川藩士)	繪画
189	小田良平	不詳	不詳	不詳	御医給師	弘化202.12	私費(57年追加)			京都	伊東玄朴(佐賀藩医)	繪画
190	田原玄周	32	寺社組	30,000	本道医(道三流)	弘化203.01	私費(24ヶ月追加)			京都	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学(蘭方)
191	田原玄周	32	寺社組	30,000	本道医(道三流)	弘化203.01	私費(24ヶ月追加)			江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	医学(蘭方)
192	三谷幾太郎	18	寺社組	39,600	繪師(豐舟流(若子家))	弘化203.02	私費(36ヶ月)			京都	不詳	繪画(蘭方)
193	久坂玄機*	27	寺社組	25,000	本道医(道三流)	弘化203.04	私費(36ヶ月)			京都	不詳	繪画(蘭方)
194	久坂玄機*	27	寺社組	25,000	本道医(道三流)	弘化203.04	私費(36ヶ月)			京都	不詳	繪画(蘭方)
195	采藤光次郎*	不詳	大組	59,800		弘化203.08				京都	不詳	繪画(蘭方)
196	工藤草之進	不詳	(大組)	不詳		弘化203.08				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
197	田辺淳庵	24	大組	69,900		弘化204.04				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
198	馬采平庵*	23	大組	44,690	劍術者(新陰柳生家当流)	弘化204.04				江戸	柳生家	文字
199	石黒丑之助*	不詳	遠近付	65,570	御医業(八巻流)	弘化204.04				江戸	野田季一(笛浦)(田辺藩)	文字
200	永田意藏	30	寺社組	41,000	外家医(南蛮流)	弘化204.04				江戸	柳生家	文字
201	原田宗純	22	寺社組	59,748	外家医(南蛮流)	弘化204.05				江戸	柳生家	文字
202	平川藩之助	不詳	(大組)	不詳	檢術者(柳川藩)	弘化204.05	私費			江戸	柳生家	文字
203	兼谷牧之丞*	不詳	(大組)	180,000	檢術者(柳川藩)	弘化204.05	私費			柳川藩	加藤善右衛門	檢術
204	井上左中	不詳	(大組)	不詳		弘化204.05	私費			柳川藩	加藤善右衛門	檢術
205	栗酒半蔵	20	供徒士	26,000		弘化204.05				柳川藩	加藤善右衛門	檢術
206	和智兵助	30	大組	112,500	格別(若殿傑御)母役	弘化204.05				江戸	中西忠兵衛(中津藩士)	劍術
207	赤川又八*	不詳	大組	50,000		弘化204.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
208	仁保太中	26	大組	47,500		弘化204.05				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
209	高橋淳平	37	大組	40,000		弘化204.06				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
210	野村作兵衛	28	大組	251,517		弘化204.06				江戸	鹽田助四郎(旗本)	劍術
211	田上宇平太	31	大組	165,000		弘化204.09	私費			江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	劍術
212	山風治郎右衛門	34	大組	不詳		弘化204.10				江戸	伊東玄朴(佐賀藩医)	劍術
213	松本彦右衛門	49	無給通	23,040	算法者・天文(徳川伝)	嘉永01.02	私費			江戸	山路新五郎(幕府天文方)	天文学
214	玉松一清	不詳	無給通	23,040	算法者・天文(徳川伝)	嘉永01.03	私費			江戸	山路新五郎(幕府天文方)	天文学
215	松本彦右衛門	57	寺社組	33,750	花道師(池坊流)	嘉永01.04	私費			京都		花道
216	熊谷季三郎*	不詳	寺社組	25,000	算打	嘉永01.04	私費(15ヶ月)			江戸		算打
217	大田藤庵*	不詳	寺社組	70,500	針医(廣高流)	嘉永02.01	私費			江戸	堀内仲良(米沢藩医)	医学
218	田北玄益	17	寺社組	38,000	針医(芥川了齋伝)	嘉永02.01	私費			江戸	堀内仲良(米沢藩医)	医学
219	飯田正伯	25	寺社組	50,000	本道医(道三流)	嘉永02.01	私費(24ヶ月追加)			江戸	堀野宗春	医学

表2-2 形態別・内容別・修業先別／長州藩他国修業生(天保12年5月～嘉永3年12月)

年	形 態	内容 遊学先	文学	剣術	槍術	馬術 弓術	砲術	兵学	医学 (漢)	医学 (蘭)	蘭学	天文学	国学	書道	能楽 音楽	絵画	其他	小計	合計
天保12	私 費	他 藩		3	2													8	38
		長 崎																	
		大 坂																	
	京 都							1											
江 戸	1								1								30		
江 戸	10	15						1											
公 務	長 崎					4													
小 計			11	18	2		4		2	1									
天保13	私 費	他 藩		9	3													15	31
		長 崎																	
		大 坂																	
	京 都														1				
江 戸								2									16		
江 戸	4	12																	
公 務	長 崎																		
小 計			4	21	3				2								1		
天保14	私 費	他 藩		8														15	47
		長 崎																	
		大 坂																	
	京 都																		
江 戸	3							2	2								32		
江 戸	9	12	3	1			1					2	4						
公 務	長 崎																		
小 計			12	20	3	1			3	2			2	4					
弘化1	私 費	他 藩		13														20	34
		長 崎																	
		大 坂									1								
	京 都																		
江 戸	1								3	2							14		
江 戸	3	7	1	1				1	1										
公 務	長 崎																		
小 計			4	20	1	1				4	4								
弘化2	私 費	他 藩			2				1									9	21
		長 崎																	
		大 坂						1											
	京 都								2							1			
江 戸										1					1		12		
江 戸	1	9		2															
公 務	長 崎																		
小 計			1	9	2	2	1		3		1					2			
弘化3	私 費	他 藩																5	7
		長 崎																	
		大 坂																	
	京 都									1	1					1			
江 戸									1	1							2		
江 戸		2																	
公 務	長 崎																		
小 計				2						2	2					1			

弘化4	私費	他藩			3													4	16
		長崎																	
		大坂																	
江戸番手	公務	江戸	1	8		1				2								12	
		長崎																	
		小計	1	8	3	1				2	1								
嘉永1	私費	他藩																4	4
		長崎																	
		大坂													1				
江戸番手	公務	江戸											2				1	0	
		長崎																	
		小計											2				2		
嘉永2	私費	他藩			2				1									9	21
		長崎																	
		大坂														1			
江戸番手	公務	江戸	3	7	1				4					1				12	
		長崎									1								
		小計	3	7	3				5	1					1	1			
嘉永3	私費	他藩		2				1										9	15
		長崎					2												
		大坂								3						1			
江戸番手	公務	江戸	1	4						1								6	
		長崎																	
		小計	1	6			2	1	3	1						1			
合計			37	111	17	5	7	1	18	13	8	2	2	4	1	6	2	234	

注:「其他」の項目には、花道・碁道を含めている。

表2-3 階級別/長州藩他国修業生
(天保12年5月～嘉永3年12月)

階級	人数
大組	176
船手組	1
遠近付	6
寺社組	30
無給通	4
供徒士	4
士雇	1
陪臣	8
合計	230
不詳	4

表2-4 石高別/長州藩他国修業生
(天保12年5月～嘉永3年12月)

石高	人数
500以上～ ^{未満}	2
100～500	44
50～100	42
～50	55
合計	143
不詳	91

表2-5 年齢別/長州藩他国修業生(天保12年5月～嘉永3年12月)

年齢	～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～60	60～	合計	不詳
人数	1	11	27	20	31	7	4	2	1	3	4	111	123

嘉永四年（一八五二）に入ると、長州藩の他国修業者への対応に一つの転機が見られる。同年三月（日不詳）、「御家来中、剣槍出精之面々、其芸修行として、他国罷越度志有之者ハ、御暇之儀、願出候ハ、可被差免⁽²³⁾」との達示が下された。先に述べたように、これまで、諸士の他国修業は、江戸番手中に限り、（江戸において）幕府、旗本及び在府の他藩士の下で稽古を行うことが基本となっていた。しかし、此度の達示により、家業人に限り許されていた修学形態、即ち、私費での他国修業が、剣・槍出精の諸士にも拡大されたのである。もっとも、前掲【表2—1】に見えるように、現実には、既に二二人の諸士が他国修業を許可されていた。二二人のうち二一人は剣・槍術修業者である。これは、此度の達示の布石になったと思われる。後掲【表3—1】のMONSUS祖式松助以下一三人は、同年二月に、私費での剣術・槍術修業として江戸行きを許可されている。一三人はいずれも、剣・槍師家の門弟であった。従って、彼等は、布達の一ヶ月前ではあるものの、師家の推薦を得て他国修業を願ひ出、早々にこれを許可された者等と推測できる。

更に、翌嘉永五年七月（日不詳）には、剣・槍術出精諸士の他国修業に際して、「少々宛、御勘渡被立下、御人差を以被差越候⁽²⁴⁾」ことが決定された。当時、「多人数之内ニハ、其志願有之候へとも、於下之申合ニ而は、兎角治定仕兼」る状況が生まれ、しかも「所帯難渋ニ而、不任所存者も間々有之」ことが問題となっていたからである。また、この時期、藩政府自身も、「是迄、被入御手、御迫立有之好得共、御内輪而已ニ而は、追年諸芸共ニ凌遅之程も難計⁽²⁵⁾」ことを文教政策上の問題と認識し、解決の糸口を探っていた。剣・槍術出精諸士の他国修業は、旅費

（公費）の支給により、公的制度的下に位置付けられたのである。加えて、次の点も指摘しておきたい。藩政府にとって、他国修業生の派遣は、「他藩之風俗、諸芸之巧拙をも見聞仕、其技之修行而已ならず、其外心得ニ可相成廉も可有之哉⁽²⁷⁾」とあるように、その付加価値も大きな魅力となっていた。即ち、「各国之武備、海陸之形勢、山川之險易ニ依て、当今海寇之手当を察し」「国々之旧法新政等聞繕ひ、諸士之風儀を察し、商家民間之事ニ至る迄、心を用ひ」ることを期待していたのである⁽²⁸⁾。旅費の具体的な額については、「剣槍之面々、金子五、六両⁽²⁹⁾」と定められた。これは、「且々九州路丈ハ、修行可相成」ことを想定した額である⁽³⁰⁾。他国修業が認められると、「先五兩被立下、路金有文、近国いづれ成とも志次第罷越⁽³¹⁾」という比較的自由な修学行動が保証されていた。このとき、文学の修業者についても、「他国修行之志有之候由相聞候」ため、「一カ年、先金子十兩可被立下」こととなった。人選方法に關しては、「他国被差出人柄之儀ハ、其芸所作之上而已ならず、兼而之持方万事誠実にして、往々御用ニ可相立人柄、委敷詮議之上、沙汰可仰付⁽³²⁾」とあるように、技芸の優劣のみではなく、平素の態度、将来性も加味された。定員は、剣・槍術修業の場合は「一ヶ年先拾四人程」となり、文学修業の場合には「一ヶ年両三人宛」に限った⁽³³⁾。彼等はいずれも、「出足当日より修行中、日記書調」ことを義務付けられている。特に、剣・槍術修業者にあつては、「修行帳をも持参」することが徹底化された。帰藩後は、「日記」「修行帳」とともに、「御用所可被差出候」よう命じられている⁽³⁵⁾。藩政府にとつて、旅費の捻出は頭の痛い問題であったが、「明倫館御再興砌、御仕渡之内、一ヶ年文武之諸芸、道具、修補、其外之御入目、小積調被仰付候銀高御入劣り」分のうち、「三ヶ一文々御引欠被成、少々宛御勘渡被立下候⁽³⁴⁾」という方法で解決することと

した。⁽³⁶⁾

【表3-1】に示すように、嘉永四年から同六年までの三年間に、他国修行を許可された者は、延べ一七七人に及んだ。先に見たように、嘉永四年には、私費での他国修業者として、剣・槍術出精の諸士一三人がその名を連ねている。旅費（公費）支給制度が導入されると、嘉永五年に二人、嘉永六年に一三人が他国修業の許可を得た。そのうち、剣・槍術師家の門弟であると確認できた諸士は、嘉永五年が一七人、嘉永六年が九人であった。彼等の修業先に「他藩」とある場合は、旅費五両の圏内、即ち、九州・中国地方へ向かったものと推測できる。なお、NO.324河野右衛門以下五人は、旅費（公費）を得て、関東への剣術修業に向かっている。これは、来秋中の剣術家斎藤新太郎の進言を藩政府が認めたことによる。新太郎は、藩政府に書を致し、「人物を選びて江戸に出だし、広く諸藩士と闘技せしまなば、大に志気を振作し、見識を啓きて技術に精熟せしむるの利益ある」ことを述べ、関東修業の諸士を派遣するよう要請したのである。NO.329桂小五郎とNO.330井上壮太郎の二人は、公費による関東剣術修業の選に漏れたものの、私費での修業を希望し、三年間の暇を得た。嘉永五年九月晦日、新太郎の江戸帰府に伴い、関東剣術修業を目指す七人は、萩を出発することとなった。江戸に到着した小五郎は、同年十二月二日、藩政府へ「日記」を提出している。この「日記」には、江戸への道中の様子が詳細に記録されている。少し長くなるが示しておこう。

覚

私共儀、関東辺為修行、斎藤新太郎同道にて、九月晦日萩出足、山口泊、明十月朔日富海船宿、中屋貴介方江着、直様出帆、同七日大坂江着、然処新太郎儀は、三田尻より出帆仕類之筈二御座候処、少

々隙取候而、同十日二着仕候、私共七日故、大坂御屋敷にて、八日九日兩日内輪稽古仕候、十日より御城脇鈴木町御代敷宿江罷越、翌十一日休、同十二日御城代屋敷にて稽古、翌十三日天満一円、番左衛門方江罷越、稽古仕り、同晩藤堂様御藩兩人、越前御藩一人、私共七人、夜船にて明晩伏見着、直様京都江罷越、西本願寺前通り、辺見将監と申者を相尋、明十五日於演武場稽古仕り、同十六日膳処江罷越、師家相尋候処、断故、翌日直様出足、水口江罷越、師家相尋候処、同断二付、其故翌十八日伊賀上野江罷越、同十九日より二十一日迄稽古仕り、同二十二日勢州津江罷越、同二十三日日休、同二十四日より十一月二日迄稽古仕り、同三日出足にて勢州松坂江泊り、郷士相尋候処、断故、翌四日同州山田江泊り、同五日志州鳥羽江罷越、同六日師家相尋候処、同断故、同七日出立、勢州田丸罷越、近辺処々郷士尋候而、四日之中兩日稽古仕り、同十二日松坂迄帰、同十三日津江着仕、然処新太郎儀は、四日市にて待合都合二御座候処、何か有故、大坂表より直様三州吉田迄罷越、待居候故、同十四日出立、白子二泊り、同十五日桑名宿、明十六日宮、十七日岡崎、十八日吉田にて、新太郎共と一同二相成、師家相尋候処、断故、一日逗留にて、二十日出立仕、舞坂二泊り、二十一日掛川、二十二日鞠子、二十三日吉原、二十四日見島、二十五日小田原、二十六日藤沢、二十七日逗留仕、二十八日川崎二泊、二十九日江府江着仕候、以上⁽³⁸⁾

これによると、小五郎等は、各地の師家を訪ね歩き、他流試合を行ってゐる。道中はまさに、自ら足を留めて求める「修業」の連続であった。小五郎の場合には、比較的制約を受けない私費修業であったためか、「場当たりの」ともいえるほど、行程、訪問先、滞在期間を自由にプラ

ンニングしてゐる。

一方、同じ道中でも、師家の場合は、他藩の要請に依りて足を留め「伝授」を行う場でもあった。これについては、M. 263 守永弥右衛門を事例としてみよう。守永弥右衛門は、荻野流の砲術師家である。嘉永四年三月（日不詳）、弥右衛門は、佐賀藩士山口良平の下での私費修業を許可され、二年間の暇を与えられた。彼は、中津藩滞留中に、同藩砲術師範松井男造に面会を請われ、荻野流砲術の指導を求められている。しかし、国元の藩政府の許可が必要であるため、ひとまずこれを保留した。同年十月二十四日、中津藩の老臣奥平求馬等は、長州藩の当役益田七内（元固）、当職毛利筑前（元統）等へ書を送り、松井男造の願意に對して応諾を求めた。次に示すとおりである。

（上略）其御藩中守永弥右衛門殿、先達而より逗留中、当所砲術師範松井男造と申者、砲術之儀、及御示談候処、流儀不分之儀、追々相分、其外御熟練之儀、受御伝授度之旨、御談申候処、被致承知候得共、其段は一応、及御掛合置度之旨、弥右衛門殿被申間候、尚又、追々被致帰国候上は、男造初門人共も、御国許江罷越、御世話にも可相成存含二有之候間、其段宜御配意被下候様致度、此段御頼旁為可得御意、以飛札如斯御座候（下略）⁽³⁹⁾

益田七内等は、協議の結果、十月二十九日に「御紙上之趣、委曲致承知候、彼者儀、格別熟練之術も有之間敷候得共、男造殿其外衆錬磨之一助とも相成候儀而、預御懇情候ハ、弥相励可申と本懐存候⁽⁴⁰⁾」と書を返し、了承の旨を伝えた。実は、こうした動きのなかで、弥右衛門は、中津藩より内密に、荻野流砲術の鑄造を依頼されていた。弥右衛門が国元の藩政府に提出した内演説書によると、中津藩から「帰萩之上、私持筒之唱ニして相調申間敷哉、且私自造致候段、銘入ニして相調候ハ、往

々於彼方御道具ニ相成可申、此段表向ニ不相成、真ノ私持筒之道理ニ相調候ハ、御頼申度⁽⁴¹⁾」との相談を持ちかけられていたのである。弥右衛門は、中津藩へ「兼而国禁有之武器之儀は、内々ニ而も他国へ送り候儀ハ、不相成筋ニ御座候」と即答した上で、「勿論、内分ニ而、夫々之役人江申談見可申候、左候而調候儀ニ御座候ハ、被仰付候通り、乍未熟私製作仕、差出可申候」と告げ、国元の藩政府の承認が必要であることを伝えた⁽⁴²⁾。翌嘉永五年四月十八日、長州藩は、弥右衛門へ、中津藩の依頼に依りて指示している。弥右衛門は、帰萩の後、八月（日不詳）には、五〇〇目玉筒、一〇〇目玉筒、一〇〇目短筒、三貫目玉砲烙筒各一挺の鑄造を終え、同月二十七日、浜崎河口の勘過の許可を得て、船便でこれを赤間関に輸送し、中津藩への送達を完了させた。翌九月五日、彼は、再び、佐賀藩への私費修業の許可を得て、七日に萩を出発した。

さて、【表3—2】は、他国修業の形態を「私費」「江戸番手中（江戸在邸中）」「親衛隊士」「公務」の四つに分け、更に、それぞれに關して修業先と修行内容別に整理し、各年毎にまとめたものである。嘉永四年・五年の両年は、私費での他国修業が剣・槍出精の諸士に拡大され、更に、旅費（公費）支給制度も導入されたため、それまで減少状態にあった修業者数が激増している。更に、嘉永六年には、江戸番手中に砲術（森重流）の修業を行った諸士が三六人に上っている。親衛隊士においても時間を割いている。嘉永六年のこの動きは、【表3—1】に示すように、ペリー来航の翌月の七月を境に一気に沸き上がる。ここには、海防問題が焦眉の急となった時代状況が現れている。他国修業者一七七人を階級別・石高別に集計すると【表3—3】【3—4】の結果となる。これによると、階級別では、階級が判明した一七二人のうち、大組士は

一五三人で、全体の約八九%に上っている。嘉永三年以前と比較すると、一二%の伸びを示している。石高別では、石高が判明した一二八のうち、中の下以下の階層は合計六四人となり、全体の五〇%となる。一方、中級の階層は六二人で、全体の約四八%を占めている。これは、嘉永三年以前と比較すると一七%の伸びとなる。即ち、ここには、ペリ―の来航という外圧に、藩政の中核に参画する大組士が危機感を持ち、中級家臣団以下が石高にかかわらず敏感に反応した様を見ることができ。また、年齢別に集計した【表3―5】によると、年齢が判明した一二七人のうち、二〇～三四歳が九二人と全体の約七二%を占めている。これは、第一期の状況とほぼ変わらない。しかし、内訳は二〇代が七三人と圧倒的に多いことから、修業者の主力の年齢層が下がってきていることがわかる。

表3-1 嘉永4年(1851)1月～嘉永6年(1853)の長州藩他国修業生

氏名	年齢	階級	石高	現役	許可年月日	期間(a)	期間(b)	修業先	師事先	修行内容	手廻組
253 吉田 木次郎	22	大組	不詳	兵学者(山鹿流)	嘉永04.01	私費(3ヶ月追加)	江戸	長崎	久松十岐太郎(彼宿方)	兵学(高島流)	
254 那珂原之進*	不詳	淺形付	14,350	大高打(藤流)	嘉永04.01	私費	江戸			砲術	
255 相式松助	不詳	(大組)	不詳	劍術者(内膳の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
256 河内山正藏	不詳	(大組)	不詳	劍術者(内膳の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
257 兼崎 巨入	29	大組	143,206	劍術者(平國の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
258 小笠原 大助兵衛	24	大組	61,000	劍術者(平國の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
259 馬場 小五郎*	25	大組	361,503	劍術者(馬場の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
260 山田 孫太郎	不詳	(大組)	不詳	劍術者(馬場の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
261 粟屋 虎藏	不詳	(大組)	不詳	劍術者(北川の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
262 尾木 恒次郎	25	大組	53,000	不詳(徳術者(内膳の門弟))	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		劍術	
263 井上 品之祐	24	大組	不詳	徳術者(内膳の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		徳術	
264 平山 謙之助	不詳	大組	不詳	徳術者(内膳の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		徳術	
265 吉崎 留之進*	25	大組	51,280	徳術者(小籠の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		徳術	
266 田坂 勇藏	不詳	(大組)	不詳	徳術者(小籠の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		徳術	
267 田坂 留三郎	不詳	(大組)	不詳	徳術者(小籠の門弟)	嘉永04.02	私費	江戸	江戸		徳術	
268 榎谷 季三郎*	不詳	寺社組	25,000	基打	嘉永04.03	私費(17ヶ月)	江戸	井上因頼・本因坊		基道	
269 守水 弥右衛門	38	大組	73,000	劍術師(彼野流)	嘉永04.03	私費	江戸	佐賀藩	山口良平	馬術	
270 橋本 友次郎*	24	大組	100,600	劍術師(人見流)	嘉永04.03	私費(36ヶ月)	江戸	村田 藤英文定(福屋醫)		馬術	
271 飯田 正伯	27	寺社組	50,000	本道医(道三流)	嘉永04.04		江戸番手				
272 中村 伊助	69	大組	41,500	侍醫(一代)限り	嘉永04.04	私費	江戸	安積祐助(良斎)		医学	
273 毛利 伊人*	30	大組	611,746	各別御小姓受	嘉永04.04	私費	江戸	安積祐助(良斎)		医学(兵学兼)	
274 吉田 木次郎	22	大組	不詳	兵学者(山鹿流)	嘉永04.05	私費	江戸	安積祐助(良斎)		文学	
275 栗原 良藏*	22	大組	73,000	儒者	嘉永04.05		江戸番手(代勤)			文学	
276 岡田 豊藏*	39	大組	56,280	儒者	嘉永04.05	私費(36ヶ月)	京都			文学	
277 山根 謙藏*	38	寺社組	25,200	筆道家	嘉永04.05	私費(36ヶ月)	京都			文学(筆道兼)	
278 末近 宗由*	17	大組	75,500	筆堂(宗易流)	嘉永04.05	私費(36ヶ月)	京都			文学	
279 小倉 健作*	21	大組	52,500	儒者	嘉永04.08	私費	江戸	安積祐助(良斎)		文学	
280 田北 玄吉	19	寺社組	38,000	儒医(採川了齋伝)	嘉永04.09	私費	京都	隈本 謙		医学	
281 山根 文之九	30	大組	47,500	儒医(採川了齋伝)	嘉永04.10	私費(36ヶ月)	江戸	隈本 謙		医学	
282 尾木 勝平(平馬)	27	大組	44,690	劍術者(新藤柳生家当流)	嘉永04.11	私費	江戸			徳術	
283 岡部 半藏*	25	大組	87,646	徳術者(十文字者宝蔵院流)	嘉永04.11	私費	江戸			徳術	
284 小籠 与藏*	不詳	大組	40,000	徳術者(十文字者宝蔵院流)	嘉永04.11	私費	江戸			徳術	
285 山根 半藏*	24	大組	147,500	儒者	嘉永05.01	私費	江戸	安積祐助(良斎)		文学(儒学)	
286 近藤 善一 郎	52	大組	43,050	儒者	嘉永05.02	私費(150日)	佐賀藩	鹿嶋 達助		文学(儒学)	○
287 品川 玄中*	20	寺社組	25,000	針医(岡崎玄隆伝)	嘉永05.02	私費(36ヶ月)	江戸			医学	
288 神代 玄益*	25	大組	53,338	本道医(古丹守山流)	嘉永05.02	私費(36ヶ月)	京都			医学	
289 遊多 野仁 十郎	27	寺社組	49,500	松園(雪舟流弟子系)	嘉永05.03	私費(36ヶ月)	京都			医学	
290 飯田 道寛	24	寺社組	22,123	本道医(道三流)	嘉永05.04	私費(36ヶ月)	京都			医学	
291 滝戸 相傳	35	寺社組	40,443	針医(福井心齋伝)	嘉永05.04	私費	(在府中)	多紀 築真(藩府医師)		医学	
292 中村 伊勢之允	21	大組	460,000		嘉永05.04		江戸番手			劍術	
293 繁沢 右衛門	40	大組	151,000		嘉永05.04		江戸番手			劍術	
294 国司 平兵衛	30	大組	200,000		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
295 猪崎 大助兵衛	22	大組	120,000		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
296 山根 弥八	23	大組	113,950		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
297 香山 九郎右衛門	不詳	(大組)	不詳		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
298 波谷 長兵衛	不詳	(大組)	不詳		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
299 堀中 之進	30	大組	67,450		嘉永05.04		江戸番手			徳術	
300 仁民 太忠	31	大組	47,500		嘉永05.04		江戸番手			徳術	

352	石川久之丞	25	大組	125,000	軍法者(合武三島流本軍 附屬の火術)	嘉永06.09		江戸番手	江戸	池田巴左衛門(川越藩士)	弓拵	
353	森重勝之進*	33	大組	25,000	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	○
354	遠藤慶二郎*	不詳	大組	280,000	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
355	平田伊兵衛	45	大組	114,200	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
356	山田純儀	34	大組	102,300	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
357	山田又次郎	不詳	大組	不詳	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
358	藤原石門	49	大組	85,600	軍法者(森重の門弟)	嘉永06.07		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
359	栗屋三十郎	30	大組	265,000		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
360	伊井竹庵	28	大組	157,500		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
361	兼信且人	31	大組	143,206		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
362	松野四郎左衛門	49	大組	118,000		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
363	尾本忠次衛	27	大組	53,000		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
364	内藤作兵衛	39	大組	47,500		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
365	大和又四郎*	36	大組	138,000		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
366	井上保太郎	27	大組	126,468		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
367	井上昂之坊	26	大組	不詳	繪師者(岡部の門弟)	嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
368	平川猪之坊	不詳	大組	不詳		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
369	相式次郎兵衛	不詳	大組	不詳		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
370	吉崎留之進*	27	大組	51,250		嘉永06.07		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
371	国司次郎三郎	25	大組	426,057		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
372	栗屋吉十郎	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
373	橋山与右衛	35	大組	450,081		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
374	鶴屋彦儀	46	大組	200,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
375	青洲久藤	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
376	神代秀之助	26	大組	175,170		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
377	白井九郎右衛門	32	大組	136,375	親衛者(内藤の門弟)	嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
378	谷島新八	29	大組	67,103		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
379	駒井九郎太	28	大組	65,172		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
380	井上外右衛門	27	大組	40,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
381	重原次郎兵衛*	27	大組	330,749		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
382	豊田清之進	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
383	豊洲平兵衛	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
384	山原与右衛門*	29	大組	186,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
385	原田作太郎	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
386	橋原唯次郎*	34	大組	144,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
387	仁俣孫	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
388	藤辺定綱	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
389	林彦五郎	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
390	井上助十郎*	不詳	大組	120,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
391	井村伊蔵*	43	大組	103,500		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
392	坂多野金吾*	21	大組	100,432		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
393	末武重良*	23	大組	80,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
394	末武重良*	24	大組	73,000		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
395	岡長十郎	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		江戸番手	江戸	森重武兵衛(備前与力)	砲拵(水軍)	
396	栗屋三十郎	30	大組	265,000		嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
397	伊井竹庵	28	大組	157,500		嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
398	大和又四郎*	36	大組	138,000		嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
399	井上昂之坊	26	大組	不詳	繪師者(岡部の門弟)	嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
400	平川猪之坊	不詳	大組	不詳		嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
401	吉崎留之進*	27	大組	51,250		嘉永06.08		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	
402	河野右衛門*	27	大組	170,000	親衛者(内藤の門弟)	嘉永06.09		親衛隊士	江戸	斎藤勝九郎(新太郎)	劍拵	

403	木田健吉	22	大組	225,000	劍術者内藤の門弟	嘉永06.09	公費(17年追加)			關	高藤弥九郎・新太郎	劍術
404	財田新三郎	不詳	大組	475,000	劍術者馬米の門弟	嘉永06.09	公費(17年追加)			奥州		劍術
405	佐久間卯吉	18	大組	40,000	劍術者平岡の門弟	嘉永06.09	公費(17年追加)			關		劍術
406	林之熊	20	大組	40,000	劍術者北川の門弟	嘉永06.09	公費(17年追加)			關		劍術
407	栗屋三十郎	30	大組	265,000		嘉永06.10				關	高藤弥九郎・新太郎	劍術(木屐)
408	野井竹箱	26	大組	137,500		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
409	兼野五人	31	大組	143,206		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
410	松野四郎右衛門	49	大組	118,000		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
411	尾本忠次郎	27	大組	53,000		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
412	内藤又四郎	39	大組	47,500	劍術者(新陰柳生家当流)	嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
413	大和又四郎*	36	大組	138,000		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
414	井上孫次郎	27	大組	126,488		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
415	井上品之祐	26	(大組)	不詳		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
416	平川清之助	不詳	大組	不詳		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
417	圓股半蔵*	27	大組	87,646		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
418	相式次郎兵衛	不詳	(大組)	不詳		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
419	吉崎留之進*	27	大組	51,250		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
420	梶野七郎兵衛	37	大組	40,000	鑓藏者(夢想流)	嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
421	原玉作兵衛	26	大組	102,093		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
422	山田七兵衛*	31	大組	102,000		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
423	田坂伝	不詳	大組	不詳		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
423	岡布藤内兵衛	43	大組	476,948		嘉永06.10				江戶	森重武兵衛(幕府与力)	劍術(木屐)
423	山崎五郎兵衛	46	大組	46,000	大筒抱打(種子島流・天山流)	嘉永06.10	公費			長崎	久松士郎太郎(長崎銃砲方)	劍術(高島流)
426	小田市之祐*	24	無給通			嘉永06.10	公費			江戶	高藤弥九郎・新太郎	劍術
427	有福半右衛門*	22	大組	160,000	劍術者平岡の門弟	嘉永06.12				江戶		劍術
428	庄木市太郎*	20	大組	188,000		嘉永06.12				江戶	高藤弥九郎・新太郎	劍術
429	小倉幾之進	不詳	(大組)	不詳		嘉永06.12				江戶	高藤弥九郎・新太郎	劍術

1人扶持=4.5石及び、銀10匁=1石で高直し済み。
 石高、階級は、主に安政2年の「分限集」より記載。
 年齢は、安政2年の「分限帳」より逆算して算出。
 *印=子弟。
 ◆印=身柄一代。
 ○で囲んだ月=閏月。
 注:「那智」、「文武御興隆沙汰控」、「諸向書」、「御意口上控」、「御奉書御証拠物控」、「敬親公御家督以来御肩書物控」、「忠正公伝」1308・1394、「修訂防長回天史」第1編、「防長医史」下巻、「松村木戸公伝」上巻、「吉田松陰全集」(大和書房版)第10巻より作成。

表3-2 形態別・内容別・修業先別／長州藩他国修業生(嘉永4年1月～嘉永6年12月)

年	形態	内容 遊学先	文学	剣術	槍術	馬術 弓術	砲術	兵学	医学 (漢)	医学 (蘭)	蘭学	天文学	国学	書道	能楽 音楽	絵画	其他	小計	合計	
嘉永4	私費	奥州																	30	32
		關東																		
		石州																		
		他藩						1		1										
嘉永4	公費	長崎					1												2	
		坂都																		
		江都	4																	
		江戸	4	9	7	1		1										1		
嘉永4	小計	江戸番手親衛隊士公務不詳	1						1										2	
		江長																		
		戸崎																		
		小計	9	9	7	1	2	1	2									1		
嘉永5	私費	奥州																	18	49
		關東		2																
		石州																		
		他藩	1	1	2															
嘉永5	公費	長崎									1								21	
		坂都								1							2			
		江都	3							3	2									
		江戸																		
嘉永5	小計	江戸番手親衛隊士公務不詳		2	7	1													10	
		江長																		
		戸崎																		
		小計	4	19	16	1			4	3							2			
嘉永6	私費	奥州																	1	82
		關東																		
		石州							1											
		他藩																		
嘉永6	公費	長崎																	13	
		坂都																		
		江都		2																
		江戸		3																
嘉永6	小計	江戸番手親衛隊士公務不詳	1	6	1	2	36		1						3				82	
		江長		12	6			13												
		戸崎																		
		小計	2	23	12	2	52	1	1							3				
合計			15	51	35	4	54	2	7	3					3	2	1		177	

注:「其他」の項目には、花道・碁道を含めている。

表3-3 階級別／長州藩他国修業生
(嘉永4年1月～嘉永6年12月)

階 級	人 数
寄 組	1
大 組	153
遠 近 付	3
寺 社 組	10
無 給 通	2
供 徒 士	1
陪 臣	2
合 計	172
(土籍剥奪)	1
不 詳	4

表3-4 石高別／長州藩他国修業生
(嘉永4年1月～嘉永6年12月)

石 高	人 数
500 以上 ～ <small>未満</small>	2
100 ～ 500	62
50 ～ 100	30
～ 50	34
合 計	128
(家禄没収)	1
不 詳	48

表3-5 年齢別／長州藩他国修業生(嘉永4年1月～嘉永6年12月)

年 齢	～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～60	60～	合 計	不 詳
人 数	1	8	31	42	19	14	3	6	2		1	127	50

結語にかえて

以上、長州藩の他国修業生の動向を、天保改革から、弘化・嘉永期までに焦点を当てて明らかにした。最後に、この間の諸事実を総括しておきたい。

元来、長州藩において、他国修業は、主として家業人に許された修学形態であった。修業を願ひ出れば、基本的には認められ、稽古料も支給された。しかし、希望者の多くは、医師・絵師・役者等であり、必ずしも修業の成果をフィードバックしているとはいえない状況にあった。既に、天保期には、藩財政の儉約のため、稽古料の支給は取り止められている。以後、家業人の私費による他国修業の希望者数は、自ずと減少し、停滞が続いた。

天保改革における文教政策では、文武刷新の一つの方策として、こうした家業人の他国修業のあり方が見直されることとなった。藩士に文武諸稽古を行う家業人の力量は、文武の奨励に当たり、必要不可欠の条件であったためである。天保十二年には、文学・弓術・馬術・剣術・槍術の師家に限り、他国修業先での精励者を対象に、藩費で稽古料が支給されることとなった。一方、この期の改革では、依然として、諸士の他国修業は認められなかった。しかし、他国修業に相当する修学形態として、次のような措置が講じられた。江戸番手中の諸士に限り、幕府、旗本及び在府の他藩士の下での稽古を認めるといものである。対象となる修学者は、番手中の諸士はもとより、その見習いの嫡子、二、三男、更には、足輕、陪臣に至るまで拡大された。

従って、嘉永三年までの約一〇年間に、藩の許可を得て他国修業を行った者としては、家業人と江戸番手中の諸士が中心となる。この間の修

業者数は、延べ二三四人に及ぶ。このうち、文武の基本と目された文学・弓術・馬術・剣術・槍術修業者は、全体の約七三%を占める。なかでも、剣術は他国修業の中心分野で、その修業者は延べ一一一人と圧倒的な数に上る。一方、この間の動向として、蘭方医学及び蘭学修業者の存在は、全体の約九%に過ぎないもの、看過できない。彼等こそが、天保改革における洋学振興策を支え、その後、発展的に継承していく存在であったからである。

なお、この二三四人を階級別・石高別に集計することによって、興味深いデータを得ることができる。階級別に見ると、やはり、他国修業者のうち、藩政の中核に参画する大組士は、全体の七七%に上る。石高別では、全体の約三一%が中級家臣団であり、約六八%が中の下以下の階層で占められている。後者、即ち、天保改革で村田清風が期待した階層が、この時期の他国修業者の主力となっていたのである。前者の数値は、こうした他国修業の風潮が確実に中級家臣団にも波及していたことを示している。年齢別に見ると、二〇代前半、二〇代後半、三〇代前半の修業がともに盛況であり、全体の約七〇%に及んでいる。

嘉永四年に入ると、長州藩の他国修業者への対応に一つの転機が見られる。これまで、家業人に限り認めていた私費での他国修業を、諸士にも拡大したのである。但し、諸士の他国修業は、その分野を剣術と槍術に限定したものであった。しかし、諸士にとっては、これまで、他国修業とは江戸番手中の（江戸での）修業であっただけに、大きな転換と映った。

続いて、翌嘉永五年には、剣術・槍術出精諸士の他国修業に、旅費（公費）が支給されることとなった。諸士の他国修業が公的制度的の下に位置付けられたのである。ここには、他国修業者に対して、武芸錬磨は

もとより、他国の「海寇之手段」及び「旧法新政」の探索を期待する長州藩の思惑があった。旅費の具体的支給額については、九州圏内を想定して金五、六両と設定され、定員は一四人に限定された。このとき、文学の他国修業も許され、定員二、三人、金一〇両（一年間）の支給が認められている。

嘉永四年から同六年までの三年間に、他国修業を許可された者は、延べ一七七人に及んだ。この間の諸士の他国修業者数は、比較的安定している。諸士の他国修業は定着したと見る事ができよう。加えて、この間の特徴として、江戸番手中の諸士の動向は特筆すべき点である。彼等は、嘉永六年のペリーの来航を境に、幕府与力の下で盛んに砲術（森重流）修業を行い始めている。こうした状況は、緊迫した時代状況を反映したものである。

この間の他国修業者一七七人を階級別・石高別に集計した結果、更に注目すべきデータを得ることができる。階級別では、藩政の中枢に参画する大組士は、全体の八九%を占め、嘉永三年以前に比べ一二%の伸びを示している。石高別では、中級家臣団は全体の約四八%を占め、中以下の階層は全体の約五〇%であった。前者は、嘉永三年以前と比較すると一七%の伸びとなる。これは、ペリーの来航という外圧に対して、藩政の中枢に参画する大組士が危機感を強め、且つまた、中級家臣団以下が石高にかかわらず敏感に反応した様を現している。また、年齢別に見ると二〇代が圧倒的に多くなり、全体の五七%に及んでいる。ペリー来航を期に、修業者の主力の年齢層が下がってきているのである。以上の内容を総合すると、長州藩の他国修業という修学形態は、天保改革において本格的に検討の対象となり、嘉永期までにはほぼ原型ができていたと見ることができるとする。また、他国修業生の動向は、時代状況に

照応していたと結論づけられる。今後は、安政期以降に派遣される他国修業生の動向を明らかにしてみたい。彼等の動きを追うことは、混沌とした政局を逆照射することにもなるであろう。

註

(1) 倉沢剛『幕末教育史の研究』第三卷（吉川弘文館、一九八六年）、海原徹『近世の学校と教育』（思文閣出版、一九八八年）。

(2) 拙稿「長州藩安政期軍制改革と洋学」（『瀬戸内海地域史研究』第四輯、文献出版、一九九二年）、同「幕末期長州藩の洋学と海軍創設―長崎直伝習生の動向を中心として―」（『有元正雄先生退官記念論集刊行会編』『近世近代の社会と民衆』、清文堂出版、一九九三年）。これらは、それぞれ、加筆・修正の後、拙著『幕末期長州藩洋学史の研究』（思文閣出版、一九九八年）の第一編第二章・第五章に収録している。

(3) 御仕組とは、藩政改革や財政改革を意味する。

(4) 当役とは、藩主の在国・参勤を問わず、常に藩主に従って補佐する職である。当役用談役は、当役の参謀として実質的に政務を預かり、当役手元役は、当役配下の諸職を統括する職役である。

(5) 拙稿「村田清風の洋学観―幕末期長州藩藩政改革との関連で―」（『史学研究』一九九一年、一九九二年）。拙著『幕末期長州藩洋学史の研究』第一編第一章。

(6) 村田清風「天保九戌年八月御仕組大野取」（山口県教育会編刊『村田清風全集』上巻、一九六一年、一五八頁）。

(7) 村田清風「流弊改正意見」（『村田清風全集』上巻、一六九―一七二頁）。

(8) 「文武御興隆沙汰控」（山口県文書館所蔵）。以下、特に断らない限り、

山口県文書館所蔵である。

- (9) 「学校一事」。
- (10) 「文武御興隆沙汰控」。
- (11) 有備館における教育の実態については、別稿で明らかにする予定である。
- (12) 「文武御興隆沙汰控」。
- (13) 「文武御興隆沙汰控」。
- (14) 「御用状控」。
- (15) 「御用状控」。
- (16) 「御用状控」。
- (17) 「御用状控」。
- (18) 志一滝貞之允は、儒者滝家の一族の可能性がある。志一と天野謙吉は、側儒小倉尚蔵の甥。
- (19) 「文武御興隆沙汰控」。
- (20) 「文武御興隆沙汰控」。
- (21) 「文武御興隆沙汰控」。
- (22) 拙稿「長州藩の西洋兵学教育―博習堂の教育を中心として―」（『教育学研究紀要』三六一―、一九九一年）、拙稿「幕末期長州藩の洋学と博習堂」（『実学史研究』Ⅷ、思文閣出版、一九九二年）、前掲拙著『幕末期長州藩洋学史の研究』第一編第三章。
- (23) 「文武御興隆沙汰控」。
- (24) 「文武御興隆沙汰控」。
- (25) 「文武御興隆沙汰控」。
- (26) 「文武御興隆沙汰控」。
- (27) 「文武御興隆沙汰控」。
- (28) 「文武御興隆沙汰控」。これは、嘉永五年七月二十一日付で発給された他

国修業に関する書付の一節である。この書付に関して、『防長回天史』は、天保十一年七月付と確定している（『修訂防長回天史』一、二五―二五二頁）。しかし、前後の関係から誤謬であることは、ここに明白である。

- (29) 「文武御興隆沙汰控」。
- (30) 「文武御興隆沙汰控」。
- (31) 「文武御興隆沙汰控」。
- (32) 「文武御興隆沙汰控」。
- (33) 「文武御興隆沙汰控」。
- (34) 「文武御興隆沙汰控」。
- (35) 「文武御興隆沙汰控」。
- (36) 「文武御興隆沙汰控」。
- (37) 木戸公伝記編纂所『松菊木戸公伝』上巻（明治書院、一九二七年）一六頁。
- (38) 「文武御興隆沙汰控」。
- (39) 「他国状控」。
- (40) 「他国状控」。
- (41) 「文武御興隆沙汰控」。
- (42) 「文武御興隆沙汰控」。
- (43) 勘過とは、手形によって番所・口屋などを通過することを意味する。